

令和7年10月1日

太田市議会議長 星野 一広 様

創政クラブ 代表 久保田 俊

全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 研修報告書

- 1 開催日 令和7年8月27日（水）から
8月28日（木）までの2日間
- 2 研修地 札幌文化芸術劇場 hitaru
- 3 研修テーマ
地方議会議員のなり手不足問題の解決に向けて
- 4 参加議員 3名
久保田俊 高田靖 川岸靖隆
- 5 概要 別添のとおり

札幌市の概要 (令和7年9月1日現在)

- ・面積 1121.26 k m² ・人口 1,967,361 人 ・世帯数 1,012,625 世帯
- ・市制施行 大正11年8月1日
- ・一般会計予算額 (当初) 令和7年度:1兆2666億円
令和6年度:1兆2417億円
- ・議員定数 68人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの月額) 400,000円

研修事項

- (1) 基調講演 「主権を預かる誇りと責任」
基調講演者 伊吹 文明 氏
- (2) パネルディスカッション 「多様な人材の参画促進の観点から
地方議会議員のなり手不足問題を考える」
- コーディネーター 辻 陽 (近畿大学法学部教授)
- パネリスト 牧原 出 (東京大学教授)
- 白石 洋一 (読売新聞東京本社政治部次長)
- 山下 節子 (山口県宇部市議会議長)
- 長内 直也 (北海道札幌市議会議長)
- (3) 課題討議 「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」
- コーディネーター 牧瀬 稔 (関東学院大学法学部地域創生科教授)
- 事例報告者 今井 康善 (長野県岡谷市議会議長)
- 平神 純子 (鹿児島県南さつま市議会議員)
- 中野 進 (石川県白山市議会議長)

【目的】

全国の市議会が直面する共通課題である「議員のなり手不足問題」への理解を深め、先進的な取組事例を学ぶため、第20回全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌に参加した。本研修では、多様な人材の参画促進という観点から、地方議会が抱える構造的課題を把握するとともに、他自治体における具体的な改革事例を学び、太田市議会における今後の議会改革や活性化施策に活かすことを目的とした。特に、議員報酬や社会保障制度の課題、主権者教育の推進、議会の情報発信強化など、実践的な取組について知見を得ることを目指した。

【所感】

本フォーラムでは、地方議会議員のなり手不足という全国的課題をテーマに、基調講演やパネルディスカッション、事例報告を通じて多角的な議論が行われました。伊吹文明元衆議院議長の基調講演では、議員は地域住民から主権を託される責任ある立場であり、時に耳障りの良い主張に流されず、苦渋の決断をも担う覚悟と説得力を備える必要があることを痛感した。また、全国的に深刻化する議員のなり手不足についても議論が交わされ、2023年統一地方選挙で町村議会の3割が無投票となった現実が民主主義の根幹を揺るがす問題であると再認識した。その背景には経済的負担が大きく、特に健康保険や年金制度の不備が志ある人材の立候補を阻んでいる構造的課題があることが示された。さらに、各地の先進事例からも多くを学んだ。長野県岡谷市議会では定数割れを契機に情報公開や市民対話を積極的に進め、石川県白山市議会の「MGK」では市民と共に議会を考える仕組みを構築し、鹿児島県では女性議員増加に向けた粘り強い取組が成果を生みつつある。これらは市民との共感と共創を実現する議会の理想像を示していた。これらを踏まえ、太田市議会においても、議会の魅力発信と主権者教育、立候補環境整備、政策提言力強化を通じ、多様な人材が活躍できる開かれた議会を実現する必要があると感じた。今回の研修では全国2452名の議員が集い、人口減少やデジタル化など環境変化の中で議会の役割が一層重要になることを共有した。太田市議会としても先進事例を参考に、市民に開かれ信頼される議会を築き、政治でまちを変えられる実感を市民と共有し、次世代が議員を志したくなるような魅力ある議会を実現することが現職議員の使命であると強く感じた。

